

三重県鋳工業生産及び生産者製品在庫の動き

I 概 況

1. 生産の動き

昭和63年の県内鋳工業生産指数の年平均は、105.1（昭和60年＝100）で（年指数については原指数による。以下同じ）、対前年比3.6%と5年連続の増加となった。四半期ごとの推移についてみると（四半期別指数については季節調整済指数による。以下同じ）、1～3月期104.3（対前期比0.2%減）、4～6月期104.0（同0.4%減）と2期連続して減少し、7～9月期106.3（同2.2%増）と増加したが、10～12月期105.8（同0.4%減）と再び減少した。（表1、図1）

これを、業種別に対前年比でみると、一般機械工業14.4%、非金属鋳業14.2%、金属製品工業11.5%、輸送機械工業6.8%、鉄鋼業6.7%、プラスチック製品工業4.9%、非鉄金属工業4.8%、石油・石炭製品工業3.9%、化学工業2.6%、窯業・土石製品工業1.2%とそれぞれ増加した。一方、パルプ・紙・紙加工品工業△17.1%、食料品工業△3.4%、繊維工業△2.3%、電気機械工業△1.7%とそれぞれ減少した。（表3）

また、財別に対前年比でみると、資本財7.1%、建設財6.3%、耐久消費財4.6%、鋳工業用生産財3.8%とそれぞれ増加し、非耐久消費財△6.5%、その他用生産財△0.1%とそれぞれ減少した。（表5）

2. 生産者製品在庫の動き

昭和63年の県内鋳工業生産者製品在庫指数（以下「在庫指数」という）の年平均は92.4（昭和60年＝100）で、対前年比△4.7%と2年連続して減少となった。四半期ごとの推移についてみると、1～3月期92.8（対前年比2.4%減）、4～6月期89.7（同3.3%減）と2期連続して減少し、7～9月期92.2（同2.8%増）、10～12月期94.7（同2.7%増）と2期連続して増加した。（表2、図1）

これを業種別に対前年比でみると、石油・石炭製品工業7.0%、繊維工業3.1%とそれぞれ増加した。一方、輸送機械工業△41.2%、プラスチック製品工業△26.0%、パルプ・紙・紙加工品工業△24.9%、電気機械工業△16.6%、非金属鋳業△16.2%、鉄鋼業△13.0%、金属製品工業△11.3%、非鉄金属工業7.8%、食料品工業△5.1%、窯業・土石製品工業△4.8%、一般機械工業△0.5%、化学工業△0.1%とそれぞれ減少した。（表4）

また、財別に対前年比でみると、その他用生産財15.0%のみ増加し、耐久消費財△36.7%、非耐久消費財△11.3%、資本財△9.2%、鋳工業用生産財△3.4%、建設財△2.7%とそれぞれ減少した。（表6）

(参考) 全国の概要

昭和63年の鋳工業生産は、前年比9.5%と59年（同9.4%）以来の高い伸びを示し、出荷も同8.6%と51年（同10.8%）以来の高い伸びを示した。

鋳工業生産は、62年年史以降、緊急経済対策の効果等が加わり、62年7～9月以来3期連続で前期比3%以上の急激な上昇を示した後、63年4～6月期には前期比△0.2%と一服感を示したものの、その後2期連続して好調な伸びを示しており、年ベースでみると高い伸び率となった。

（通商産業大臣官房調査統計部編「昭和63年鋳工業生産活動分析」から抜粋）

表1 鋳工業生産指数の推移 昭和60年=100

	全 国		三 重 県	
	指数	前年(期)比	指数	前年(期)比
59年平均	96.4	109.4	94.7	106.8
60年 "	100.0	103.7	100.0	105.6
61年 "	99.8	99.8	100.1	100.1
62年 "	103.2	103.4	101.5	101.3
63年 "	113.0	109.5	105.1	103.5
63年 I 期	110.6	102.8	104.3	99.8
II 期	111.5	100.8	104.0	99.7
III 期	113.7	102.0	106.3	102.2
IV 期	115.8	101.8	105.8	99.6

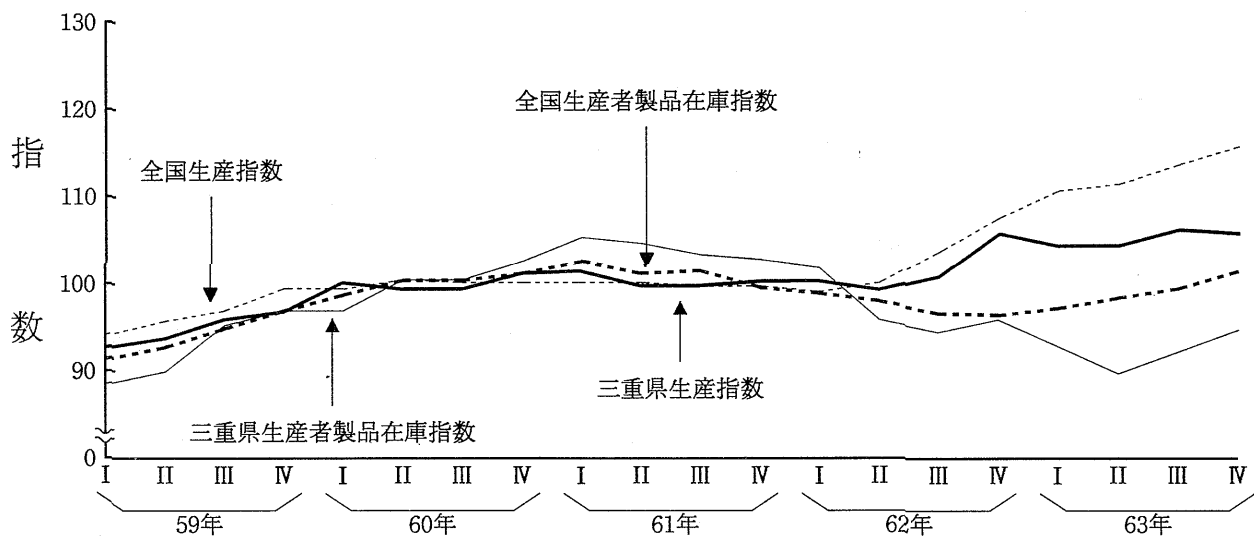
(年平均は原指数。四半期別指数は季節調整済指数)

表2 鋳工業生産者製品在庫指数の推移 昭和60年=100

	全 国		三 重 県	
	指数	前年(期)比	指数	前年(期)比
59年平均	93.8	101.8	92.4	105.9
60年 "	100.0	106.6	100.0	108.2
61年 "	101.1	101.1	103.9	103.9
62年 "	97.4	96.3	97.0	93.3
63年 "	99.0	101.6	92.4	95.3
63年 I 期	97.2	100.5	92.8	97.6
II 期	97.7	100.5	89.7	96.7
III 期	99.5	101.8	92.2	102.8
IV 期	101.5	102.0	94.7	102.7

(年平均は原指数。四半期別指数は季節調整済指数)

図1 鋳工業指数の推移 (昭和60年=100、季節調整済)



II 業種別鋳工業生産及び生産者製品在庫の動き (表3、表4)

1. 鉄 鋼 業

63年の県内鉄鋼業の生産指数は106.6で、対前年比6.7%と2年連続して増加した。これは、ウェイトの大きい可鍛铸铁、鋳鉄物等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期102.5(対前期比1.9%)と6期ぶりに減少したが、4～6月期106.6(同4.0%増)、7～9月期110.3(同3.5%増)と2期連続して増加し、10～12月期107.0(同3.1%減)と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は91.5で、対前年比△13.0%と2年連続して減少した。これを、四半期別にみると1～3月期90.5(対前期比10.8%減)と62年10～12月期より2期連続して減少し、4～6月期91.1(同0.7%増)、7～9月期92.1(同1.1%増)と2期連続して増加し、10～12月期92.1(同±0%)は横ばいに推移した。

2. 非鉄金属工業

63年の県内非鉄金属工業の生産指数は、112.4で対前年比4.8%と6年連続して増加した。これは、銅裸線、電力ケーブル等が増加したためである。四半期別に推移をみると1～3月期111.9（対前期比1.0%減）、4～6月期107.1（同4.3%減）と2期連続して減少したが、7～9月期112.9（同5.4%増）、10～12月期117.3（同4.0%増）と2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は88.9で、対前年比△7.8%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期86.7（対前期比4.1%減）、4～6月期82.9（同4.3%減）と2期連続して減少したが7～9月期89.0（同7.3%増）、10～12月期96.5（同8.5%増）と2期連続して増加した。

3. 金属製品工業

63年の県内金属製品工業の生産指数は128.2で、対前年比11.5%と4年連続して増加した。これは、アルミニウムサッシ、管継手等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期126.9（対前期比2.5%増）と62年4～6月期より4期連続して増加し、4～6月期123.3（同2.8%減）と5期ぶりに減少したが、7～9月期130.3（同5.7%増）、10～12月期132.0（同1.3%増）と再び2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は82.9で、対前年比△11.3%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期84.4（対前期比1.7%増）、4～6月期87.8（同4.0%増）と2期連続して増加したが、7～9月期81.0（同7.8%減）、10～12月期76.9（同5.0%減）と2期連続して減少した。

4. 機械工業

63年の県内機械工業の生産指数は、電気機械工業が減少したが、輸送機械工業、一般機械工業が増加したため、対前年比5.8%と2年ぶりに増加し指数106.4となった。また、在庫指数は、一般機械工業、電気機械工業、輸送機械工業ともに減少したため、対前年比△17.3%と減少し、指数は89.3となった。

4-1 一般機械工業

63年の県内一般機械工業の生産指数は119.3で、対前年比14.4%と2年連続して増加した。これは、軸受、飲料用自動販売機等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期109.9（対前期比1.1%減）と4期ぶりに減少し、4～6月期118.9（同8.1%増）、7～9月期126.4（同6.3%増）と2期連続して増加したが、10～12月期121.5（同3.9%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は107.1で対前年比△0.5%と5年ぶりに減少した。これを四半期別にみると、1～3月期113.2（対前期比0.7%増）と62年7～9月期より3期連続して増加したが、4～6月期105.2（同7.1%減）、7～9月期101.6（同3.4%減）と2期連続して減少し、10～12月期106.9（同5.2%増）と再び増加した。

4-2 電気機械工業

63年の県内電気機械工業の生産指数は102.4で、対前年比△1.7%と2年ぶりに減少した。これは、その他の制御リレー、その他の低圧器具等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期110.0（対前期比0.8%減）、4～6月期109.1（同0.8%減）、7～9月期94.8（同13.1%減）と3期連続して減少したが、10～12月期96.2（同1.5%増）と4期ぶりに増加した。

一方、在庫指数の年平均は76.1で、対前年比△16.6%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期77.1（対前期比6.7%減）、4～6月期69.1（同10.4%減）と62年4～6月期より5期連続して減少したが、7～9月期79.1（同14.5%増）、10～12月期79.3（同0.3%増）と2期連続して増加した。

4-3 輸送機械工業

63年の県内輸送機械工業の生産指数は103.6で、対前年比6.8%と2年ぶりに増加した。これは小型自動車、トラックシャシ等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期101.3（対前期比1.7%増）、4～6月期101.2（同0.1%減）、7～9月期106.3（同5.0%増）、10～12月期105.1（同1.2%減）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は81.1で、対前年比△41.2%と3年ぶりに減少した。これを四半期別にみると、1～3月期91.7

(対前期比29.0%減)、4～6月期56.7(同38.2%減)と2期連続して減少したが、7～9月期64.8(同14.4%増)、10～12月期106.5(同64.3%増)と2期連続して増加した。

5. 窯業・土石製品工業

63年の県内窯業・土石製品工業の生産指数は101.5で、対前年比1.2%と2年連続して増加した。これは、遠心力鉄筋コンクリート、ポルトランドセメント等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期102.0(対前期比1.6%減)、4～6月期98.0(同4.0%減)と2期連続して減少したが、7～9月期103.9(同6.1%増)と増加し、10～12月期101.8(同2.1%減)と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は99.5で、対前年比△4.8%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期100.4(対前期比3.1%減)、4～6月期98.4(同1.9%減)と62年7～9月期より4期連続して減少し、7～9月期100.2(同1.8%増)と増加したが、10～12月期99.2(同1.0%減)と再び減少した。

6. 化学工業

63年の県内化学工業の生産指数は107.9で、対前年比2.6%と8年連続して増加した。これは、ウェイトの大きいポリスチレン、合成ゴム等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期107.0(対前期比0.2%減)、4～6月期99.6(同6.9%減)と2期連続して減少したが、7～9月期111.3(同11.7%増)、10～12月期112.2(同0.8%増)と2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は88.9で、対前年比△0.1%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期89.3(対前期比4.0%増)と増加し、4～6月期85.8(同4.0%減)と再び減少したが、7～9月期87.4(同1.9%増)、10～12月期92.9(同6.3%増)と2期連続して増加した。

7. 石油・石炭製品工業

63年の県内石油・石炭製品工業の生産指数は97.6で、対前年比3.9%と4年ぶりに増加した。これは、灯油、A重油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期93.8(対前期比2.1%増)、4～6月期96.7(同3.1%増)、7～9月期98.5(同1.9%増)、10～12月期101.4(同2.9%増)と4期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は109.0で、対前年比7.0%と2年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期108.7(対前期比3.0%減)、4～6月期100.6(同7.5%減)と2期連続して減少したが、7～9月期111.8(同11.2%増)、10～12月期112.2(同0.4%増)と2期連続して増加した。

8. プラスチック製品工業

63年の県内プラスチック製品工業の生産指数は96.7で、対前年比4.9%と3年ぶりに増加した。これは、フィルムシート、機械器具部品等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期94.0(対前期比0.2%減)と3期ぶりに減少したが、4～6月期95.6(同1.7%増)、7～9月期97.9(同2.4%増)、10～12月期99.0(同1.1%増)と3期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は58.7で、対前年比△26.0%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期65.9(対前期比6.7%減)、4～6月期62.7(同4.9%減)、7～9月期54.9(同12.4%減)、10～12月期50.9(同7.3%減)と4期連続して減少した。

9. パルプ・紙・紙加工品工業

63年の県内パルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は89.6で、対前年比△17.1%と6年ぶりに減少した。これは、ウェイトの大きな雑種紙が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期98.9(対前期比9.9%減)、4～6月期91.5(同7.5%減)、7～9月期87.1(同4.7%減)、10～12月期81.9(同6.0%減)と4期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は70.9で、対前年比 Δ 24.9%と4年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期62.9（対前期比27.3%減）、4～6月期60.7（同3.6%減）と2期連続して減少したが、7～9月期75.8（同24.9%増）、10～12月期81.3（同7.3%増）と2期連続して増加した。

10. 繊維工業

63年の県内繊維工業の生産指数は103.8で、対前年比 Δ 2.3%と2年ぶりに減少した。これは、合成繊維織物、毛織物が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期104.3（対前期比0.1%増）、4～6月期103.1（同1.2%減）、7～9月期104.6（同1.5%増）、10～12月期103.3（同1.2%減）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は90.2で、対前年比3.1%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期85.1（対前期比2.3%増）、4～6月期93.2（同9.5%増）、7～9月期94.1（同1.0%増）と62年10～12月期より4期連続して増加したが、10～12月期89.0（同5.4%減）と減少に転じた。

11. 食料品工業

63年の県内食料品工業の生産指数は95.6で、対前年比 Δ 3.4%と2年ぶりに減少した。これは、プロイラー加工品、植物油脂等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期94.9（対前期比7.2%減）、4～6月期94.0（同1.0%減）と2期連続して減少し、7～9月期98.7（同5.0%増）と増加したが、10～12月期95.2（同3.6%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は105.1で、対前年比 Δ 5.1%と3年ぶりに減少した。これを四半期別にみると、1～3月期112.3（対前期比4.2%減）、4～6月期109.9（同2.1%減）、7～9月期100.5（同8.5%減）、10～12月期97.6（同2.9%減）と4期連続して減少した。

12. その他工業

63年の県内その他工業の生産指数は100.3で、対前年比1.6%で2年連続して増加した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業7.2%、家具工業4.6%、木材・木製品工業 Δ 4.1%、その他製品工業 Δ 12.6%であった。四半期別に推移をみると、1～3月期102.2（対前期比3.2%増）、4～6月期103.2（同3.8%増）と2期連続して増加したが、7～9月期98.5（同4.6%減）、10～12月期97.5（同1.0%減）と2期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は101.6で、対前年比 Δ 2.9%と3年ぶりに減少した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業が5.8%と増加したものの、家具工業 Δ 15.6%、木材・木製品工業が Δ 9.1%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期98.8（対前期比5.1%減）と62年10～12月期より2期連続して減少し、4～6月期102.3（同3.5%増）、7～9月期103.8（同1.5%増）と2期連続して増加したが、10～12月期101.6（同2.2%減）と再び減少した。

13. 鉱業

63年の県内鉱業生産指数は120.3で、対前年比14.2%と3年連続して増加した。これは、石灰石、かんらん岩等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期114.8（対前期比2.4%増）、4～6月期122.8（同6.9%増）、7～9月期125.3（同2.0%増）と3期連続して増加したが、10～12月期118.7（同5.2%減）と減少した。

一方、在庫指数の年平均は79.2で、対前年比 Δ 16.2%と2年ぶりに減少した。これを四半期別にみると、1～3月期76.2（対前期比14.0%減）と減少し、4～6月期83.4（同9.5%増）、7～9月期84.5（同1.3%増）と2期連続して増加したが、10～12月期72.6（同14.1%減）と再び減少に転じた。

14. 公益事業（参考）

63年の県内公益事業の生産指数は179.7で、対前年比55.7%と増加した。これは、ウェイトの大きな電力が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期152.6（対前期比17.6%増）、4～6月期166.3（同9.0%増）、7～9月期171.4（同3.0%増）、10～12月期228.8（同33.5%増）と62年10～12月期より5期連続して増加した。

表3 業種別鉄工業生産指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率 (%)				63年四半期別・対前期増減率 (%)			
	60年	61年	62年	63年	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期
鉄工業	5.6	0.1	1.3	3.6	△ 0.2	△ 0.4	2.2	△ 0.4
製造工業	5.6	0.1	1.3	3.6	△ 0.2	△ 0.4	2.3	△ 0.5
鉄鋼業	△ 3.8	△ 8.6	9.4	6.7	△ 1.9	4.0	3.5	△ 3.1
非鉄金属工業	6.0	5.7	1.5	4.8	△ 1.0	△ 4.3	5.4	4.0
金属製品工業	8.9	1.4	13.4	11.5	2.5	△ 2.8	5.7	1.3
機械工業	12.9	2.5	△ 1.9	5.8	△ 0.3	1.1	0.2	△ 0.6
一般機械工業	2.7	△ 3.2	7.8	14.4	△ 1.1	8.1	6.3	△ 3.9
電気機械工業	3.9	△ 0.8	5.1	△ 1.7	△ 0.8	△ 0.8	△ 13.1	1.5
輸送機械工業	23.9	6.6	△ 9.0	6.8	1.7	△ 0.1	5.0	△ 1.2
窯業・土石製品工業	7.5	△ 3.8	4.2	1.2	△ 1.6	△ 4.0	6.1	△ 2.1
化学工業	0.1	0.8	4.3	2.6	△ 0.2	△ 6.9	11.7	0.8
石油・石炭製品工業	△ 5.0	△ 1.8	△ 4.3	3.9	2.1	3.1	1.9	2.9
プラスチック製品工業	3.1	△ 3.8	△ 4.2	4.9	△ 0.2	1.7	2.4	1.1
パルプ・紙・紙加工品工業	3.1	1.4	6.5	△ 17.1	△ 9.9	△ 7.5	△ 4.7	△ 6.0
繊維工業	△ 0.3	△ 0.8	7.2	△ 2.3	0.1	△ 1.2	1.5	△ 1.2
食料品工業	△ 1.1	△ 2.7	1.8	△ 3.4	△ 7.2	△ 1.0	5.0	△ 3.6
その他工業	4.0	△ 3.9	2.8	1.6	3.2	1.0	△ 4.6	△ 1.0
鉄業	△ 7.4	4.5	0.8	14.2	2.4	6.9	2.0	△ 5.2
非金属鉄業	△ 7.4	4.5	0.8	14.2	2.4	6.9	2.0	△ 5.2
公益事業	△ 4.4	11.8	3.3	55.7	17.6	9.0	3.0	33.5
産業総合	5.3	0.5	1.4	5.3	0.4	0.0	2.7	0.9

表4 業種別鉄工業生産者製品在庫指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率 (%)				63年四半期別・対前期増減率 (%)			
	60年	61年	62年	63年	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期
鉄工業	8.2	3.9	△ 6.7	△ 4.7	△ 2.4	△ 3.3	2.8	2.7
製造工業	8.2	3.9	△ 6.7	△ 4.7	△ 2.4	△ 3.4	2.8	2.7
鉄鋼業	△ 1.9	11.2	△ 5.4	△ 13.0	△ 10.8	0.7	1.1	0.0
非鉄金属工業	5.4	12.9	△ 14.6	△ 7.8	△ 4.1	△ 4.3	7.3	8.5
金属製品工業	40.3	△ 0.6	△ 6.0	△ 11.3	1.7	4.0	△ 7.8	△ 5.0
機械工業	19.2	11.3	△ 3.0	△ 17.3	△ 10.5	△ 12.6	4.5	12.1
一般機械工業	26.7	2.8	4.7	△ 0.5	0.7	△ 7.1	△ 3.4	5.2
電気機械工業	47.3	5.8	△ 13.7	△ 16.6	△ 6.7	△ 10.4	14.5	0.3
輸送機械工業	△ 17.2	36.1	1.4	△ 41.2	△ 29.1	△ 38.2	14.4	64.3
窯業・土石製品工業	6.0	13.1	△ 7.6	△ 4.8	△ 3.1	△ 1.9	1.8	△ 1.0
化学工業	7.3	△ 3.2	△ 8.1	△ 0.1	4.0	△ 4.0	1.9	6.3
石油・石炭製品工業	0.8	6.2	△ 4.1	7.0	△ 3.0	△ 7.5	11.2	0.4
プラスチック製品工業	38.4	△ 2.6	△ 18.7	△ 26.0	△ 6.7	△ 4.9	△ 12.4	△ 7.3
パルプ・紙・紙加工品工業	△ 2.7	△ 1.1	△ 4.5	△ 24.9	△ 27.3	△ 3.6	24.9	7.3
繊維工業	8.4	△ 0.7	△ 11.9	3.1	2.3	9.5	1.0	△ 5.4
食料品工業	△ 3.7	2.5	8.2	△ 5.1	△ 4.2	△ 2.1	△ 8.5	△ 2.9
その他工業	△ 0.2	1.5	3.1	△ 2.9	△ 5.1	3.5	1.5	△ 2.2
鉄業	2.8	△ 8.8	3.6	△ 16.2	△ 14.0	9.5	1.3	△ 14.1
非金属鉄業	2.8	△ 8.8	3.6	△ 16.2	△ 14.0	9.5	1.3	△ 14.1
公益事業	—	—	—	—	—	—	—	—
産業総合	8.2	3.9	△ 6.7	△ 4.7	△ 2.4	△ 3.3	2.8	2.7